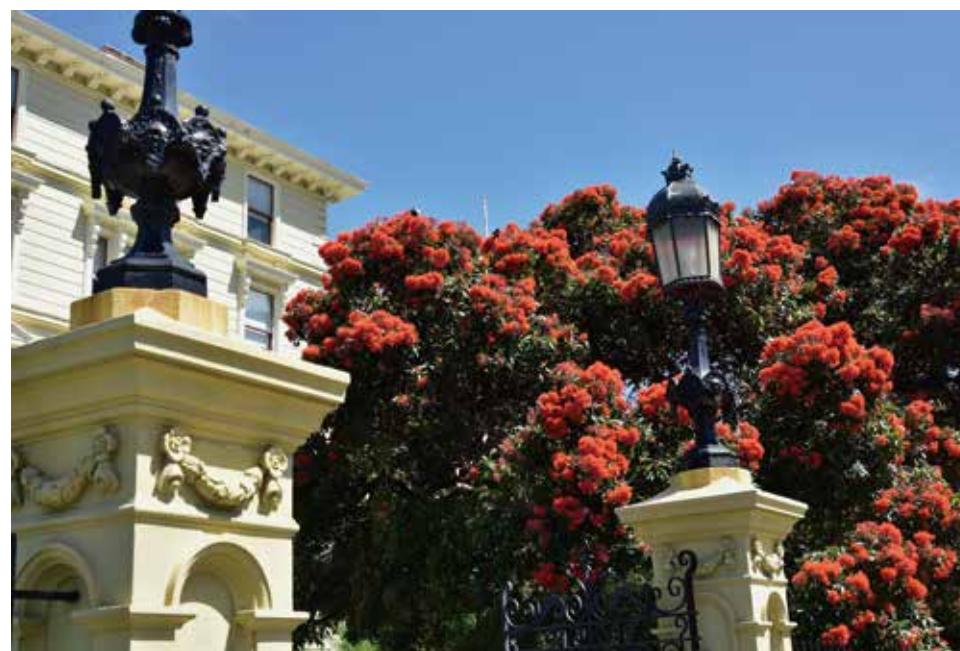




世界ふれあい
花歩き ニュージーランド編
ウェリントンの植物園

Wellington Botanic Garden
Otari-Wilton's Bush

小笠原 誓



ニュージーランド北島の南西端にある首都ウェリントンは南島との間を流れるクック海峡に面しています。海洋性気候で夏の最高気温は30℃を超えることはなく、冬も3℃を下回ることがほとんどない非常にマイルドな気候です。

ウェリントンには大きな植物園が2つあります。一つはウェリントン・ボタニック・ガーデン (Wellington Botanic Garden) と呼ばれ、150年の歴史をもつ、いわゆるイギリス型の植物園です。

もう一つはオタニ・ウィルトンズ・ブッシュ (Otari-Wilton's Bush) と呼ばれる自然植物園です。どちらも市街からは数分から20分程度で行くことができます。



市街地と植物園を結ぶケーブルカー

国際会議事務所近くのラムトンキーはビジネス街でたくさんの商業施設もあります。そのビル群の間にケーブルカーの駅があり、そこから数分で植物園の一番上まで行くことができます。25haの広大な敷地の多くは丘陵地帯で、たくさんの小路があり、少し勾配はきついのですが、ゆっくりと散策することができます。



多肉・サボテンのエリア

訪れた1月は日本の6月くらいの季節になり、アジサイやアガパンサスがそこここに咲いています。南アフリカと気候が少し似ており、南ア



アロエ・プリカティリス Kumara plicatilis

植物園北部の平坦地にはベゴニア・ハウスやバラ園が作られています。ダニーデン植物園と同じように自然の植物を植栽したエリアと園芸をテーマにしたエリアを分けています。



ベゴニア・ハウス（右の温室）とバラ園

平和の庭 (Peace Garden) の常夜灯には、ニュージーランドの核兵器反対の取り組みを称えて日本からおこられた広島原爆の火が灯されています。



Peace Garden

オタニ・ウィルトンズ・ブッシュ
入口写真 看板の上はコルディリネ アウストラリス

もうひとつの植物園、オタニ・ウィルトンズ・ブッシュは、市内中心部からバスで20分ほどのところにあります。

ニュージーランド原産の植物だけを集めて作られた植物園で、他の地域の植物は一切植えられていません。ヨーロッパからの入植が多くあった1800年代、この辺りの森林は耕作地にするため森は次々と伐採され、木材は貴重な資源とされていたそうです。しかしながら、初期の入植者の一人ジョブ・ウィルソンという人が自然植生を守るべきだということ一部の区画を囲って、そこは触らないようにするという政策を取って保護したそうです。現在ウィルソンブッシュと名付けられた植物園として残っています。

ニュージーランド本土と沖合の島々の植物を代表する種類や栽培品種を含む約1,200種が自生しています。植物の名前を記したラベルも多くつけられ、研究所では絶滅危惧種を繁殖して自然界に戻す活動もしています。全長75mのキャノピーウォークウェイ（森の遊歩道）を通って、自然林を周回することができます。



キャノピーウォークウェイ



自然林 木性シダが美しい

国際会議事務所近くの政府関係の建物で満開のニュージーランド・クリスマツリー (Metrosideros excelsa) を見かけました。ニュージーランド原産で、夏のクリスマスを飾る真っ赤な花が青い空を背景に咲き誇っていました。



花のアップ

観葉植物とはじめよう『植生活』

何か植物を飾ってみたいけど、育て方がよくわからない、すぐに枯らしてしまいそう…そんな方にも安心！初心者の方でも簡単に育てられる観葉植物をピックアップしてみました。ちょっとしたコツさえおさえれば、簡単に育てられ、新生活に癒しと潤いを与えてくれますよ。

観葉植物の多くは、直射日光を避けた明るい環境を好みます。種類によって日陰に強い植物もありますが、窓がなく全く日光が入らないお部屋に置くのはNG！段々と軟弱になってしまって、時々は明るい場所に移してあげてください。

観葉植物と生活する上で1番重要なのは水やりです。「土が乾いたら、鉢底から流れぐらうと見える」というのが基本！季節や置き場所により、土の乾くスピードは大きく変わるので、何日に1回と決めすぎず、土の乾き具合を確かめながら水やりしていただくのが一番良い方法です。自信がない方は土の乾き具合を教えてくれるサスティー（水やりチェック）があると水やりのタイミングもわかりやすくオススメですよ。

ちょっとしたスペースに植物を飾りたい、手軽に植物を育ててみたい方にはハイドロカルチャーもオススメです。

ハイドロカルチャーとは水耕栽培の1種で、土を使わない栽培方法です。土の代わりにレカトンという粘土を高温で焼き固めたものを使うので土汚れの心配もいりません。穴の空いて無い器に、水を溜めて管理します。水は1cm程度溜めておけば十分！水がなくなれば新しい水を足します。水やりのタイミングが一目でわかるので、初めての方にも分かりやすく安心です。

春から新しい環境で新生活が始まる方も多いと思います。お部屋に手軽に始められるグリーンを取り入れて、観葉植物と一緒に暮らす『植生活』始めてみませんか？



① ガジュマル
暖かい季節には新しい芽をグングン伸ばしていきます。非常に生育旺盛で育てやすく人気の観葉植物。一鉢ずつ個性的な鉢姿、自分好みの一鉢を探してください。



② ポトス エンジョイ
水を吸う植木鉢アクアプランツポットに植え込みました、鉢自身が水を吸い上げ、適切な量の水を植物に与えてくれます。ポトスは耐陰性にも優れており、置き場所も選びません。



③ サンセベリア
丈夫、手間いらずで非常に育てやすい！置き場所も選びませんが、なるべく日当りの良い場所で育ててあげましょう。水の与えすぎには注意が必要です。



④ パキラ ハイドロカルチャー
レカトンで植え込んでいるので土汚れの心配は不要！お気に入りの器で楽しめます。土植えに比べ生育もゆっくりで、小スペースでも楽しめます。